

## 令和6年度第76回卒業証書授与式 校長式辞

数年に一度と言われた厳しい寒波が去り、春を思わせる気候に心躍るような感覚を覚える頃となりました。

本日、PTA副会長 野尻 実加世 様、同窓会 会長 川口 孝誠 様 をはじめとする御来賓の皆様、ならびに保護者の皆様の御臨席を賜り、福井県立高志高等学校の第76回卒業証書授与式を挙行できますことは、この上ない喜びであります。

生徒ならびに教職員を代表して、心よりお礼申し上げます。

さて、ただいま、卒業証書を授与した237名の皆さん、卒業おめでとうございます。

卒業生の皆さんは3年間、高志中学校にも在籍した皆さんは6年間、本校での様々な活動に意欲的に、そして誠実に取り組んでくれました。そのような皆さんの姿は、高志中学生も含めた後輩たちのよきモデルとなっていたことは間違いありません。皆さんが残した数々の業績は、後輩たちが目指すべき目標として、今後も輝き続けるものと思います。

また、皆さんの真摯な姿には、私たちも、多くの場面で、教員としてのやりがいや幸せを感じさせていただきました。様々な意味で、卒業生の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

今日は、皆さんが取り組んでくれたことのうち、3つのことに触れながら、私の思うところを述べたいと思います。

まず、生徒会長・副会長を務めた内藤大樹さんや大野未愛さんたちが進めてくれたプロジェクトについてです。

2人は、生徒会の活動として、夏の猛暑対策という課題に取り組み、第2体育館に空調設備を設置することを目的としたクラウドファンディングを行いました。この活動はたいへん注目され、賛同くださった多くの方々から目標額以上の寄付金が寄せられました。おかげで、今年の夏からは、適切な環境で第2体育館での活動ができることとなりました。

この活動を報じた昨年8月4日の福井新聞の記事の中で、2人は次のように述べています。

「体育館に空調設備があればどれほどよいかと、常に思っていた。今回のクラウドファンディングを契機に、県内の学校にも空調設備が設置され、生徒が安全に活動できればと思う。」

「体育館の空調は、簡単には成し遂げられない。猛暑から後輩を守るために、私たちの行動と、大人の方々の協力が必要だ。県全体の生徒のためにも一生懸命活動したい。」

私は、この記事を読んだ時、心が震えたのを今でも覚えています。それは、

- ・日頃から気になっていることを解決したい
- ・他者のため、社会の幸福のために行動したい
- ・難しそうでも諦めないで、他者の力も借りながら実現したい

といった、生徒に身につけてほしいと本校が考えている姿勢が、生徒自身の言葉で述べられていたからです。

私は、内藤さんや大野さんだけが特異な存在であるとは思っていません。いま、ここにいる卒業生の皆さんも、同じような姿勢や考え方を備えた状態で、本校を巣立っていかうとしているのだと信じています。そして、皆さんが、これからの人生の中で、課題の発見と解決、他者との協働・協力を通して未来社会の発展に尽力してくれることを心から願っています。

2つ目は、学校祭に関する事です。何日も前から台風の影響が心配される状況でしたので、私は、各部門の責任者の生徒に集ってもらいました。生徒による生徒のための行事である学校祭について検討すべきことがあれば、生徒の議論に預けたいと考えたからです。

会議に参加した生徒の中には、何としても学校祭をやりたいという思いを熱く述べる人もいれば、制約のある中で最大限できることを考えようという視点から発言してくれる人もいました。何が正解なのか分からない状況の中で、強い思いと冷静な判断のバランスをとりながら、より良い答えを見いだそうとする高志高校生・中学生のリーダーたちの姿を目の当たりにした私は、皆さんのことをとても頼もしく感じたものです。会議の場をそのような雰囲気にくれたのは、もちろん、卒業生の皆さんでした。

幸い、福井県には台風による大きな影響はなく、本校ではほぼ予定通り、学校祭を行うことができました。各部門の作品やパフォーマンスは、生徒の皆さんの思いが例年とは異なるレベルで結集していたからか、特に目を見張るものがありました。このように、リーダーシップを大いに発揮して、学校祭を大成功に導いてくれたのも、卒業生の皆さんでした。

エンディングを迎えた時の私は、大きな満足感に包まれていたのは言うまでもありません。きっと、皆さんも、格別の思いでいたのだろうと思います。

この時、私は、もっといろいろなことを生徒に任せてもよいのではないかという思いを抱きました。このことについては、来年度以降の高志高校の新たな課題とさせてもらえればと思います。

様々な場面で生徒がより主体的に活動できる学校となるためには、どのようにするとよいか。在校生の皆さん、そして先生方、この課題をしっかりと受け止めてください。

3つ目に、大学受験について話します。私は、推薦型入試に挑戦する皆さんと対話する機会を持たせていただきました。皆さんが書いてきた志望理由書には、

- ・大学で何を学びたいのか
- ・大学での学びを活かして、将来何に取り組みたいのか
- ・世の中の人々にどのような貢献をしたいのか
- ・社会をどのように改善・変革したいのか

といった思いがたくさん詰まっていました。

私は、そのような思いを受け止めながらも、皆さんの理由書の完成度を高めるために、「なぜそのように言えるのか?」「具体的にはどういうことか?」など、内容に関する質問を次々と投げかけました。それを受けて、皆さんは、人によっては何度も、私のもとへ足を運んでくれました。こうしたやり取りが、皆さんが自分の内面を省察し、将来への思いを確固たるものにするチャンスになったのなら、とても嬉しく思います。

皆さんは、「アントレプレナーシップ」という言葉を聞いたことがあるでしょう。世の中の課題に対して新しい解を提示し、リスクを恐れずに立ち向かっていこうとする姿勢や考え方のことです。「起業家精神」とも言われますが、実際に会社を興すかどうかはポイントではありません。社会課題の解決のためにアクションを起こそうとする姿勢があるかどうかが重要なのです。

アントレプレナーシップを発揮するためには、次の3つの交わる場所を明確に捉える必要があると、私は考えています。それは、

- ・世の中に存在する課題のうち、どれに向き合っていきたいと思うか。
- ・何のために、誰のために、その課題を解決しようとするのか。

・自分の強み、すなわち、自分の興味・関心や、自分が持っている知識、経験、適性などをどのように活かそうと思うか。

の3つです。

皆さん。これらの問いに対する答えを探究しながら、自分のアントレプレナーシップを発揮する努力を続けてください。

そのような皆さんのチャレンジの積み重ねが、世の中に変化をもたらし、やがては新しい社会が構築されていくのだと、信じています。

特に、3つ目の「自分の強みを活かす」という視点は、皆さん一人ひとりの存在意義や個人の幸せに直結することですから、大切にしていきたいと思います。

以上、3つのことについて述べました。この他にも、皆さんが本校で取り組んだこと、皆さんが本校に残してくれたことは、言い尽くせないほどあります。その一つ一つが、皆さん一人ひとりの物語を紡いできたことと思います。これからは、それぞれの新しい世界で、その続編を創り続けてください。

保護者の皆様。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

お子様達がこのように卒業の日を迎えられ、皆様のお喜びはいかばかりかと存じます。

お子様たちには、様々な経験を糧にしながら、自分の可能性を広げていただきたいと願い、私たちはこれまで精一杯支援させていただきました。

至らぬ点もあったかと存じますが、保護者の皆様方には、これまで、本校の教育活動に格別のご理解とご協力を賜りました。教職員を代表して、心よりお礼申し上げます。

誠にありがとうございました。

卒業生の皆さん。あと一つ、お願いをさせていただきます。それは、校歌に込められた「高志の念い」を、いつまでも持ち続けていただきたいということです。

「玉の緒の命を愛（お）しめ」

「天地（あめつち）は我らを待てり」

「海山の花としならむ」

自分自身を大切にしながら、社会の発展や人々の幸福のために、自分の選んだ領域で存分に力を発揮し、未来の風景に彩りと輝きを加えてください。

結びに、卒業生の皆さんが歩まれる人生に、幸多かれと祈念し、式辞といたします。

令和7年3月4日

福井県立高志高等学校長  
山内 悟